

発行日：平成30年 2月 6日

発行者：今村証券株式会社

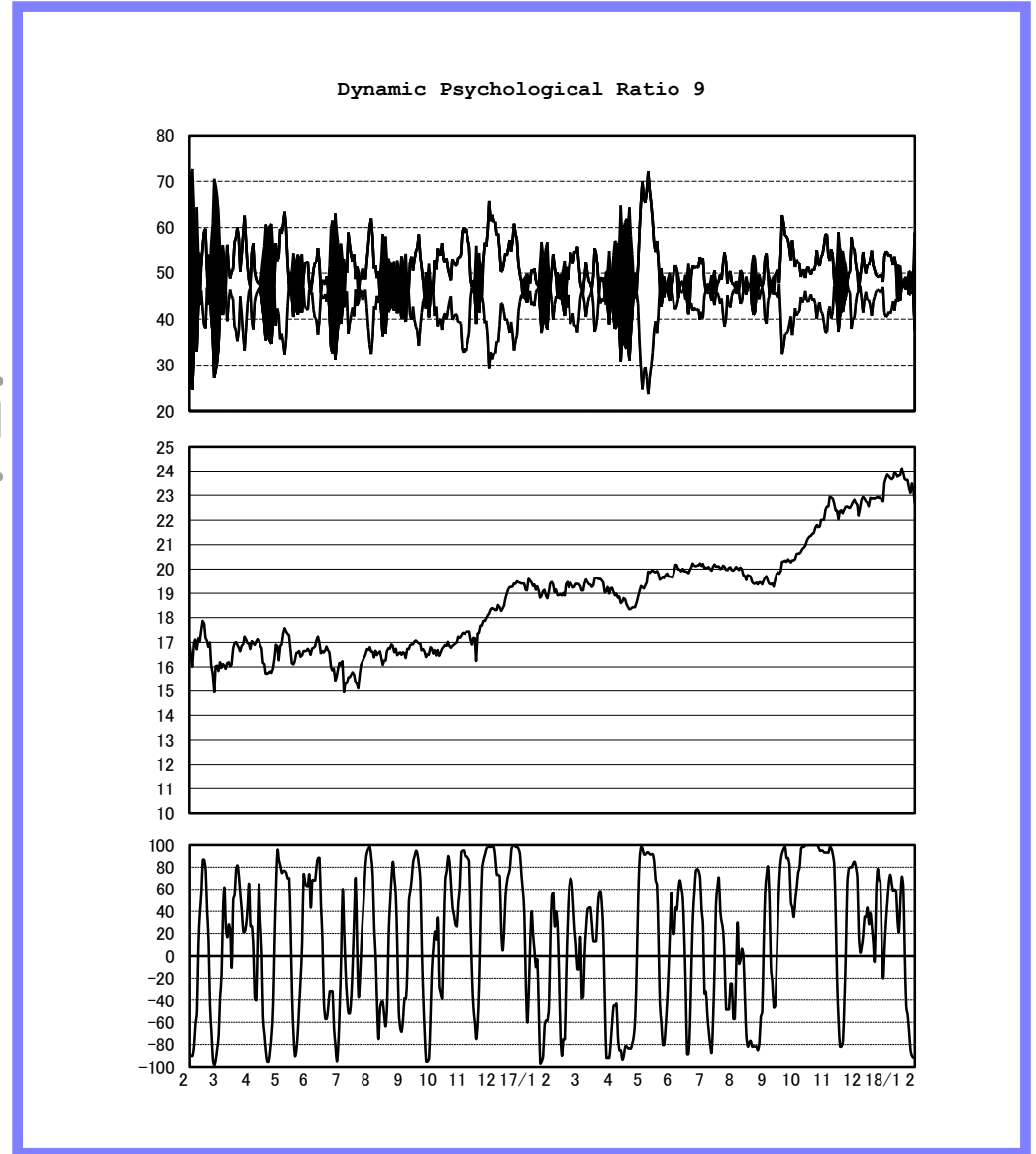
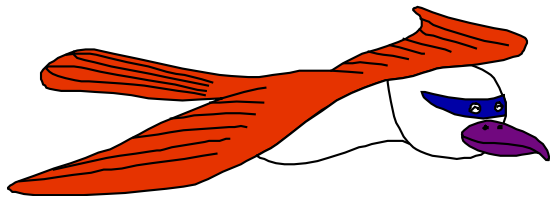
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

日本証券業協会加入

制作責任者：営業業務部 調査課

情報シャトル特急便

第613号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場
下図はRCI（9日ベース）で、-80%ラインを上につき抜け→買い場
80%ラインを下につき抜け→売り場

大所高所

思い起こせばグリーンズパンやバーナンキやイエレンがFRB議長に就く直前も、市場は大きくグラついた。それはあたかも「オイオイ、下手に引き締めるとタダじゃあ済まねえよ」と釘を刺すようだった。先週週末と昨日の米国株急落もパウエルFRB議長就任への手荒いブラフだったと考えると納得がゆく。パウエルが時流に流されそうなだけに、ブラフも強烈なのだ。

もともと現在の株高の根源は世界的な過剰流動性の存在。そこに急激な金利上昇が起きてきた。懸案の雇用情勢も大きく改善してきている。年3回どころか4回の金利引上げも取り沙汰され、引き締めの気運が高まってきていた。市場はそんな流れに待ったをかけようと総力を挙げて警戒信号を発したということだ。だから、この強烈なブラフで市場が大きく崩れれば崩れるほど、引き締めは遅れ、その反動で中長期的な株価反動高の規模は大きくなることが予想される。景気が良くなれば金利が上がり株価も上がるのは、極めて当然。それなのに無理やり引き締めを遅らせようという下げだから、結果的に逆に株価の上昇は大きくなる筈ではないか。

日本でも低迷していた不動産株や電鉄株などに動意が見え始めていた。インフレの足音が聞こえ始め、株価もそれを織り込み始めたと考えたい。王道銘柄押し目買い。中長期的強気堅持。

(B I S)

ただ一筋

世界の金融市場に動揺が広がっている。きっかけは先週末発表の1月米雇用統計を受けた米金利の急上昇だった。NYダウはまず、前日比665ドル下落、続いて昨日には1,175ドル下落と如何にも米国らしい急落相場といえよう。

確かに、この金利上昇で企業や投資家の資金調達コストが上昇し、米国景気に悪影響を及ぼすとの懸念は理解できるが、金利上昇の流れは昨年からも懸念材料として株価に織込まれていたはずだ。ここは冷静な判断が必要で、あまりにも急激な株高の反動、FRB議長交代局面での市場メッセージ等々「健全な調整」とも思える。北朝鮮や中東などの予期せぬ地政学リスク以外での動揺は一時的と確信できるかどうかは今回の急落への対処ポイントだろう。

ただ、この急落でグローバルに資金運用をしている投資家の見送り姿勢は強まり、ポジション調整から利益確定売りも広がることから「落ちるナイフは掴むな」で様子見もあろうが、ここは突っ込みを狙うには大きなチャンス到来でもある。過去の経験則で物色対象に変化が起こる可能性がある。これまで好業績で買われてきたハイテク株、人材派遣株などは避け、ようやく回復局面を迎えた銘柄群の突っ込みを狙いたいものだ。

そこで注目は、世界に誇れる高品質を製造するチタン株と窯業株だ。個別銘柄では東邦チタニウム(5727)、ヨータイ(5357)を挙げたい。 (三感王)

当たり屋見参

前週末2日の米ダウ工業株30種平均が前日比665ドル下げ、歴代で6番目の下げ幅を記録した。1月雇用統計が市場予想を大きく上回る内容となり、米長期金利が急騰し、幅広い銘柄が売られた。

週明け5日の日経平均株価はこの流れを引き継ぎ、2016年11月9日以来の大きな下げ幅である592円安となり、2万3000円を割り込んだ。

ただ日本の企業業績は好調であり、ここは強気で対処したい。注目銘柄として京阪神ビルディング(8818)、ダイビル(8806)を挙げる。いずれも不動産株の中で大阪に本社がある大阪発祥の企業で、今でも大阪の不動産をたくさん保有している点に注目したい。

大手不動産株である三井不動産、三菱地所、住友不動産が2015年の高値に届いていない中、京阪神ビルディング、ダイビルは2015年の高値を抜いている。大阪万博、カジノを含む統合リゾート・IR問題など大阪の不動産の価値が上がっていくということを、お金の世界は見抜いて動いているように思う。

(笑春)

中堅の視座

投資する銘柄を考えるとき、その企業がどのような業務を行っているのか、どのような仕組みで利益を生み出しているのかを把握することは重要である。しかし近年、システムの普及により売買が高速化するにつれて、単に個々の株価の動きに着目し、企業の実態を見ることを疎かにする傾向が強まっているような気がする。

まずその企業をじっくりと観察したい。そしてその企業を見る上で、競合他社が少なく、参入障壁が高い業界に注目したい。

東証マザーズにリファインバース (6531) という企業がある。使用済みの業務用カーペットを再資源化する事業に強みがあり、様々な廃棄物からの再資源化に挑戦している次世代素材メーカーだ。独自の開発技術を持ち、参入障壁の高いオンリービジネスの1つであろう。

(Penguin21)

きらきら星

日経平均株価は日本の企業業績への改善期待や世界的な株高を背景として5ヶ月連続の上昇。今月1日も387円高と幸先よくスタートしたのだが、米国株の大幅安を起点に含み益を抱えた投資家がひとまず資産を現金に換えようとする動きが世界に波及し大波乱となった。

ただ、日本はデフレからインフレに大転換となりつつあると思われ、そうならば中長期の株高は不変だ。今まで売り方だった国内投資家（個人、機関投資家）に絶好の買いチャンスを提供する局面となり、市場参加者に厚みが増すことになると思われる。遠からず相場は落ち着きを取り戻し、売りが一巡した後は徐々に下値を切り上げ、再び上昇相場に戻るようになるだろう。

そうした状況下、好業績が発表され一旦は材料出尽くしから調整入りしている日本電産（6594）に注目したい。精密小型モーターから車載、産業用の中大型モーターにシフトが進んでおり、今後も各方面での需要拡大が見込まれる。16,000円より下値があれば丹念に拾っていきたい。

（猫のシャーミー）

アナログの俯瞰

2018年、戊戌（つちのえいぬ）。今年第一回目となるので、また干支の話を。

「戊」は繁栄、中国陰陽五行で言えば「陽の土」、季節の変わり目、転じて不安定という意味もあるらしい。続いて「戌」。戌は終焉、これも陰陽五行で言えば「陽の土」。土が2つ重なり合ってより激しさを増す。プラスでもマイナスでもどちらかに偏る。ただ、十二支にちなんだ相場格言で言えば、「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌笑い、亥固まる、子は繁栄、丑つまずき、寅千里を走り、卯跳ねる」となる。戌年の日経平均勝率80%を加味して上昇が続くと結論づけたい。

1月に異常な強さを見せていた米国株式市場は、2月に入り金利急上昇、一部主要企業の四半期決算の失望などから大幅下落となった。日本の市場もその煽りを受けている。相場格言でいう節分天井の約10日前に天井をつけたことになる。この大幅調整を経て株式は再び上昇へ向かい始める、といつもより更に強く信じたい。

今年の相場テーマの一つは5Gと捉え、自分の中の本命、好決算のソニー(6758)、珍しく？立て続けに材料発表しまくりのデジタルガレージ(4819)、12月上場、樹脂加工の森六ホールディングス(4249)。

(孫って本当にかわいいよ、を実感しまくってるクレイジーゲーマー)

アナリストによる北陸企業便り

(近藤浩之)

＜三光合成＞

主力事業はプラスチック部品の成形で、車両向けが6割強を占める。

2018年5月期第2四半期は約1割の増収、4割弱の営業増益となった。タイでの受注回復、生産性の改善などが寄与し、欧州での受注も好調を維持した。通期見通しに対する進捗率は売上高が53.4%、営業利益が62.3%と高水準だ。下期に設備増強に伴う先行費用が嵩むとしているが、今村証券では通期営業利益を27億円程と予想し、3億円程の上振れ余地があるとみている。

設備増強は、5カ国7拠点で進行している。インドでは新工場が1つ稼働し、もう1つが建設中だ。中国・武漢地区では来年初めに新工場の本格稼働を予定し、同・広州地区では生産の一部を委託先から自社へ切り替える。国内では来夏、大分県に新工場の完成を見込み、英国とフィリピンでは生産能力を3割増やす。この増強によって、来期は費用が先行して増益率が鈍化するとみられるものの、再来期は増益率が高まるだろう。

株価は、1月11日に過去最高値（株式分割考慮後）を約13年ぶりに更新、2月1日には一時849円まで上昇した。株価は大きく上がったものの、今期業績の上振れ期待や、投資指標面で割安感が残っている点を評価すべきだろう。東証1部への指定替えといったトピックスが発表されれば、更なる追い風となるはずだ。

” 僧 中 線 罫 ”

週足



日足



出所：ブルームバーグ

米10年債利回りが2.8%台半ばまで急上昇したことが、リスク回避ムードに拍車をかけ先週末のNYダウは665ドル安。週明けの東京株式市場も、この影響をまともに食らった格好で592円安の22,682円で始まった。これで13週移動平均(23,043円)を割り込み、調整相場入りへ(ちなみに買い転換は9月15日の19,909円)。2月6日の東京市場も、連日のNYダウのパニック安の流れで、10:30現在で1,100円安となっている。突如襲った急落相場だが、日米とも中期的にも好調な景気拡大を背景に、再び上昇相場に復帰すると期待したい。この調整局面では、しっかりと業績拡大が見込める銘柄を仕込むチャンスととらえ前向きに挑みたい。空売り比率は8日連続の40%超え。週末にSQを控え、底入れ反転に期待したい。

6480 日本トムソン

軸受企業でニードル軸受等と直動軸受が2大柱。新基幹システム導入の混乱は解消、来期は半導体や工作機械の活況を受け繁忙持続し収益性向上、大幅増収が見込まれる予想。株価は昨年12月の700円近辺から今年1月4日に929円へ急動意を見せたが、今回の急落で750円台に。まずは2月13日の決算発表に注目したい。(ICHI)

* 情報シャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.1799% (税込) (1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円 (税込)) の委託手数料をご負担いただきます。株式は、株価の変動により損失が生じるおそれがあります。

非上場債券を当社が相手方となりお買い付けいただく場合は、購入対価のみお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動などにより価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

外国株式・外国債券等は、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。